

社会福祉法人円平成 29 年度事業報告

はじめに

平成 29 年度は多機能型就労支援事業所まどかでは就労移行支援事業 3 名、就労継続支援事業 B 型 55 名、生活介護事業 10 名でスタートいたしました。多機能型施設としてそれぞれの事業における課題を整理していく中で、施設運営の根幹ともいえる理念作りに取り組み「明るく、楽しく、快適に」をモットーに利用者が自立した日常生活、又は社会生活を提供できるよう、就労の機会・生活介護・相談支援等の提供するとともに、生産活動その他、支援活動を通じて、その知識及び能力の向上のために必要な訓練等の便宜を適切かつ効果的に行ってまいりました。

施設の重要な課題である資金収支状況の改善については、障害福祉サービス収入の確保に向け、就労支援部門においては利用者数の確保及び稼働率の向上に取り組み、生活介護部門においては、障害支援区分更新時期に合わせて正当な支援区分評価となるような働きかけを継続して進めてきました。

平成 29 年度においては、収入に対する人件費比率が上昇し資金収支がマイナスとなり、収入の確保、支出の削減は大きな課題ですが、職員体制の

充足や支援体制の整備も同時に取組んでまいりました。

1. 基本方針

「明るく、楽しく、快適に」をモットーに利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動の機会の提供を通じて、その知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の便宜を適切かつ効果的に行います。また、常時介護等の支援が必要な方に、食事及び排せつの介護、創作的活動等を提供すると共に、計画相談支援に取り組みます。

2. 重点項目

- (1) 仙萩の杜ぴあと合併に伴う組織・事務体制の整備
- (2) 販売事業部の推進と適正な運営（工賃の安定的な確保）
- (3) 商品開発と販売体制への挑戦

3. 数値目標

- (1) 就労継続支援B型利用者定数（定員50人）

就労移行支援事業（定員 13 人）

254 日 × 63 人... 16,002 人

B 型利用者内訳：まどか 30 人・まどか西中田 20 人

（2）生活介護利用者定数（定員 10 人）

246 日 × 10 人... 2,460 人

4. 平成 29 年度の基本的目標

平成 30 年 5 月合併にあたりこれまでの両法人の基本的方針や理念のすり合わせに努めました。二つの法人が一つになることで組織・事務体制が複雑化する中で、経営マネジメントの強化、利用者サービスの強化、事業運営に関わる人材の確保を目標にまいりました。

事業の見直しとして、平成 29 年 9 月末に「就労移行支援事業」の廃止、平成 30 年 3 月末に「相談支援事業」の廃止を行い、更に平成 30 年 2 月には「まどか西中田」を施設単独化と致しました。

平成 30 年 4 月には送迎体制の見直しとして、安全な送迎体制と利用者の自立支援を目的に拠点バス送迎の見直しを行いました。

特に利用者への安心・安全体制を強化し、保護者・地域からの要望に応

えられる組織を作り上げます。個々のニーズに寄り添った質の高い支援や透明性のある組織づくりを目指し、健全で時代の変化に対応できる創造性のある体制の整備をしてまいりました。

5. 就労支援事業の取り組み

工賃アッププロジェクトとして、パン販売・季節商品（ケーキ等）の売上増を図りました。また、現事業の推進を図り、主な事業として「ペーパー販売」や「野菜作り」「PC基板回収」等を行いました。本格的に事業を展開し、利用者工賃アップに結び付けてきました。

主な事業体制

①パンの販売

利用者を含めた製造及び販売体制を見直し、売上増に努めました。お客様が飽きないよう、季節に応じた変化のある商品作りや、販売のロスを少なくする努力を行いました。

衛生面に気を配り、「安心」「安全」な商品を提供し利用者の知識や能

力の向上に努めました。

②家庭紙の販売

利用者の就労体験や労働訓練、言葉の使い方、挨拶等といった接客行動、労働意欲の向上を図りました。また、利用者自身の労働が自分たちの工賃にいかに関与しているかを知る機会を与えるチャンスとなるよう指導し、併せて、販売活動で人間形成に必要な自立意識の向上と人材育成を図りました。

③クラフト商品の販売

利用者の能力に合わせた支援体制に取り組み、従来商品の販売継続を見直し、新商品開発と販売体制の整備に努めました。新商品の開発については、民芸工房たかはし先生の指導により進めてまいりました。また、繭玉・シルク商品の在庫整理等に取り組みました。

④農園事業（野菜作り、販売）

計画的な作付けを基本とし、無農薬栽培による自然栽培の実践に

取り組みました。また、栽培・販売方法の両立した実践を図りながら、利用者自らが栽培の喜びを体験し販売を推進してまいりました。

西中田・袋原の店頭において、西中田で栽培・仕入した野菜を利用者の皆さんが中心となって販売することが出来ました。

⑤基板事業の展開

「障害者による資源のリサイクル事業宮城モデル」の立上げにより、本事業は小型家電を分解・分別しレアメタルを取り出し、資源の再利用に貢献する事業で、PC等の基板を分別する作業を展開しました。業者から年間受注を受け、利用者・職員も対応出来る体制作りに努めました。

⑥清掃事業（外部・内部請負清掃）

外部請負業務として、仙台市袋原たんぽぽホーム（週5回 月平均20回 年間平均240回）、仙台市大野田たんぽぽホーム（週1回 月平均4回 年間平均48回）、仙台市上飯田たんぽぽホーム（週1回 月平均4回 年間平均48回）、中田神社等

から受諾しており、この実績をさらに広げるよう受諾活動を強化してきました。

6. 生活介護事業の推進

定員10名体制の中で、日中活動支援の充実を目指してきました。きめ細やかな穏やかな時間の流れに寄り添った支援内容に取り組んでまいりました。

地域や顧客ニーズに沿った商品の開発に取り組み、従来からの保護者からの要望に対応できる販売活動への参加を目指してまいりました。

7. 広報活動

透明性の確保としてホームページを活用し、事業所の展開状況や商品の紹介などを発信してまいりました。また、facebook を利用し、社会の要望をいち早く事業に取り入れ社会に参加する多様な情報を提供しました。広報誌「まどか通信」を年7回発行し関係機関との連携を図りました。

8. 合併協議会等の取り組み

合併に伴い人材の交流を前提とした事業の見直しを行い、法人体制の組織をより強化し財源の確保に努めました。また、常に「挑戦」を念頭に置き社会のニーズに即した事業展開に努めてまいりました。

9. 地域生活支援事業（余暇活動等）について

コーラス活動（MMS）について

職員の指導の下、月1回程度のペースで練習会を重ね、日常の生活が自信と誇りに繋がるように発表の場を設けてまいりました。

「とっておきの音楽祭2016」、「まどか感謝祭」等で発表を行いました。発表を通し地域とふれあい自信に繋げていけるように努めてまいりました。

10. その他

（1）職員研修

外部研修として下記の研修に職員を派遣しました。

「工賃向上のための基礎知識セミナー」

「太白支所管内食品衛生管理者講習会」

「ホシザキ衛生講習会」

「職場のこころ健康づくりセミナー」

「平成29年度宮城県社会福祉施設新任職員研修」

「平成29年度高次脳機能障害者ベーシック研修」

「安全運転研修」

「平成29年度社会福祉施設長資格認定講習」

ほか、多数

(2) 健康管理について

利用者・職員の健康管理のため、健康診断を実施し、嘱託医の沖田直医師の指導の下、利用者等の健康管理に留意してまいりました。

